

部会名：国内外の耐震設計法に関する 調査・研究部会	部会長：藤倉修一（宇都宮大学）
1. 構成員（幹事6名、部会員24名） 副部会長：田嶋仁志（IHIインフラシステム） 幹事長：松崎裕（東京工業大学） 幹 事：党紀（埼玉大学），後藤僚一（パシフィックコンサルタンツ），岡田誠司（IHIインフラシステム）， 相京健太郎（大日本デザインコンサルタント） 部会員：櫻井拓也（富貴沢建設コンサルタンツ），山崎一真（川田工業），西川宇市（巴コーポレーション），伊藤隼（IHIインフラシステム），今西修久（エイト日本技術開発），山下勝美（高田機工），福岡雅俊（オリエンタルコンサルタンツ），大橋晃平（中央復建コンサルタンツ），三藤亨（JIPテクノサイエンス），国井俊輔（横河ブリッジ），安島駿（宮地エンジニアリング）， 錦織洋介（駒井ハルテック），宮内大成（日本ファブテック），峯湜典（建設技術研究所），浅野寿仁（佐藤鉄工）， 高田孝史朗（三井住友建設鉄構エンジニアリング），大庭拓也（日立造船），石井ハナ（総合技術コンサルタント）， 山中誠矢（JFEエンジニアリング），木沢敬太（パシフィックコンサルタンツ），ベンジヤミン・フリト（川金コアテック），中村真貴（地震工学研究開発センター），石川義樹（八千代エンジニアリング），恩田駿秀（八千代エンジニアリング）	
2. 活動方針 本部会では、我が国における現行の耐震設計法を検証するとともに、国内外の耐震設計法との比較および整理を行い、新たな耐震設計の考え方について検証を行うことを目的とする。また、若手の研究者と実務者で国内外の耐震設計法について協議するとともに、実際にそれぞれの耐震設計法により試設計を行い、さらに、対外発表迄を行うことにより、鋼橋に携わる技術者の耐震設計に関する技術力の底上げを図ることも目的としている。	
3. 具体的な活動計画 本部会では、国内外の耐震設計法の比較を行うため、各国において設計事例の多い道路橋を対象とする。まずは、全体で現行の道路橋示方書における耐震設計法の検証を行う。次に、耐震設計の先進地域である、ニュージーランドおよび米国カリフォルニア州の耐震基準を取り上げ、2つのWGに分け、活動を行う。WGの調査結果を検証し、現行の耐震設計法へのフィードバックを行うことを目指す。 ①道路橋示方書：全体 ・現行の道路示方書の問題点・疑問点等を実務者に調査し、検証を行う。 ・WG1およびWG2の調査結果を検証し、現行の耐震設計法へのフィードバックを行う。 ②ニュージーランド基準：WG1 ・New Zealand TRANSPORT AGENCYの耐震基準であるBridge manualを検証し、道路橋示方書と比較を行う。 ・本基準を用いて、試設計を行う。 ③米国カリフォルニア州基準：WG2 ・Caltrans（California Department of Transportation, カリフォルニア州交通局）の耐震基準であるSeismic Design Criteria（SDC）を検証し、道路橋示方書と比較を行う。 ・本基準を用いて、試設計を行う。 ※準備会を2024. 3/21に実施し、第一回全体部会を2024. 4/24に実施（予定）。	
4. その他 部会運営上の問題や運営幹事会に対する要望、連絡事項等有ればご記入ください 現状では、特にございません。	